

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（野菜用）

認証取得者氏名	なべくら高原アスパラガス出荷組合 代表 市村伸一	認証番号	50-00139	地事名	北信
地域（標高）	飯山市（400m）				
土壌（土性）	淡色黒ボク土				

項目	生産計画の内容	補足メモ	
1 栽培状況	(1) 品目	アスパラガス（品種：ウエルカム、ガインリム）	ウエルカム（多収性） ガインリム（春先の立茎が早い）
	(2) 作型名	春取り作型が主で一部夏まで	
	(3) 面積	2,777 a	
	(4) 栽培戸数又は労働力	12戸	
	(5) 栽培期間	平成27年7月～平成28年7月	
	(6) 収穫期間	平成28年5月5日頃～平成28年7月20日頃	
	(7) 収穫量	H27実績 36,000 kg（うち出荷量：36,000 kg）	129.6kg/10a
	(2,777a当たり）	H28計画 55,540 kg（うち出荷量：55,540 kg）	

2 栽培方法	(1) 土づくり	サンライム、消石灰、苦土、ようりん等の施用によるpHや塩基バランス調整																																												
	(2) 播種	平成28年 4 月 10 日																																												
	(3) 育苗期間	平成28年 4 月 10 日～ 6 月 10 日																																												
	(4) 定植	6月中旬～下旬																																												
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌のpH、塩基バランスを整える、土づくりに重点を置き、そのうえで最小限の化学肥料を施用するようにしている。（有機由来成分を含む肥料を主に使用） <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌分析により土の状況を把握し、肥培管理をしている。 ・ 専用肥料（22なべくらアスパラ専用肥料）の特徴は、一発肥料のため省力的である。 <p>肥料の施用内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22なべくらアスパラ専用肥料</td> <td>195</td> <td>21.2</td> <td>14.7</td> <td>22.8</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>熔成りん肥（ようりん）</td> <td>200</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>40</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>スノークローース</td> <td>0.1</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>闘根242</td> <td>0.1</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>395.2</td> <td>21.2</td> <td>14.7</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>化学由来窒素成分量 (kg/10a)</td> <td>14.7</td> </tr> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>51.0%</td> </tr> </table>		肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	22なべくらアスパラ専用肥料	195	21.2	14.7	22.8	1.2	熔成りん肥（ようりん）	200	0.0	0.0	40	0.0	スノークローース	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	闘根242	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	合計	395.2	21.2	14.7			化学由来窒素成分量 (kg/10a)	14.7	地区慣行施肥量 (kg/10a)	30	低減率(%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																												
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																																										
22なべくらアスパラ専用肥料	195	21.2	14.7	22.8	1.2																																									
熔成りん肥（ようりん）	200	0.0	0.0	40	0.0																																									
スノークローース	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0																																									
闘根242	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0																																									
合計	395.2	21.2	14.7																																											
化学由来窒素成分量 (kg/10a)	14.7																																													
地区慣行施肥量 (kg/10a)	30																																													
低減率(%)	51.0%																																													

2 栽培方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立茎期の重点的な防除（普及技術：茎枯病に対する体系防除プログラムの活用） <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な巡回指導での病害虫の早期発見 （生産工程管理者（作物担当）と地区担当の2名体制で、月に2～3回の巡回を行い、病害虫の適期防除を推進している。） <p>病害虫防除の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺菌剤</td> <td>① Zホルト®-水和剤</td> <td>500</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="5">10</td> <td>茎枯病、斑点病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② ICホルト®-66D</td> <td>50</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>茎枯病、斑点病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ アミスター-20フロアブル</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>茎枯病、斑点病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ ベント水和剤</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>茎枯病、斑点病</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ タニコール1000</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>茎枯病、斑点病</td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td>⑥ プレバソフロアブル5</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3">7</td> <td>ハスモンヨトウ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑦ タントツ水和剤</td> <td>2000～4000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>アブラムシ、カメムシ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑧ アーテント水和剤</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>アブラムシ、カメムシ</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>⑨ センコル水和剤</td> <td>150g/100ℓ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑩ パスタ液剤</td> <td>300～500ml/100～150ℓ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑪ ラントアップマックスロート</td> <td>2000ml/25～50ℓ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td>合計</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>20</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※農薬名に番号を付記</p> <table border="1"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>50.0%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	殺菌剤	① Zホルト®-水和剤	500	1	2	2	2		10	茎枯病、斑点病		② ICホルト®-66D	50	1	2	2	2		茎枯病、斑点病		③ アミスター-20フロアブル	2,000	1	1	1			茎枯病、斑点病		④ ベント水和剤	2,000	1	1	1			茎枯病、斑点病		⑤ タニコール1000	1,000	1	1	1			茎枯病、斑点病	殺虫剤	⑥ プレバソフロアブル5	2,000	1	1	1			7	ハスモンヨトウ		⑦ タントツ水和剤	2000～4000	1	1	2			アブラムシ、カメムシ		⑧ アーテント水和剤	1,000	1	1	1			アブラムシ、カメムシ	除草剤	⑨ センコル水和剤	150g/100ℓ	1	1	1			3			⑩ パスタ液剤	300～500ml/100～150ℓ	1	1	1					⑪ ラントアップマックスロート	2000ml/25～50ℓ	1	1	1					植調剤														合計	14	4	0	20		農薬の使用回数	10	地区慣行農薬使用回数	20	削減率(%)	50.0%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫																																																																																																																																			
	殺菌剤	① Zホルト®-水和剤	500	1	2	2	2		10	茎枯病、斑点病																																																																																																																																			
		② ICホルト®-66D	50	1	2	2	2			茎枯病、斑点病																																																																																																																																			
		③ アミスター-20フロアブル	2,000	1	1	1				茎枯病、斑点病																																																																																																																																			
		④ ベント水和剤	2,000	1	1	1				茎枯病、斑点病																																																																																																																																			
		⑤ タニコール1000	1,000	1	1	1				茎枯病、斑点病																																																																																																																																			
	殺虫剤	⑥ プレバソフロアブル5	2,000	1	1	1			7	ハスモンヨトウ																																																																																																																																			
		⑦ タントツ水和剤	2000～4000	1	1	2				アブラムシ、カメムシ																																																																																																																																			
		⑧ アーテント水和剤	1,000	1	1	1				アブラムシ、カメムシ																																																																																																																																			
除草剤	⑨ センコル水和剤	150g/100ℓ	1	1	1			3																																																																																																																																					
	⑩ パスタ液剤	300～500ml/100～150ℓ	1	1	1																																																																																																																																								
	⑪ ラントアップマックスロート	2000ml/25～50ℓ	1	1	1																																																																																																																																								
	植調剤																																																																																																																																												
					合計	14	4	0	20																																																																																																																																				
農薬の使用回数	10																																																																																																																																												
地区慣行農薬使用回数	20																																																																																																																																												
削減率(%)	50.0%																																																																																																																																												
(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラクター耕運による機械除草（畝間130～140cm） ・ 除草剤の有効活用（雪解け後すぐ散布し、雑草の発生初期の抑制を行う） ・ 刈り取り後散布し、翌年の雑草発生抑制を行う（特にスギナ対策として実施） 																																																																																																																																												
(8) 収量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位面積当たりの収量は200g/10aと少ないが、栽培面積の多さで経営としての収益は大きい。 																																																																																																																																												
(9) その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株の更新は1～2年と早く、ほ場も変えながら株更新も行い、土壌へ過度の付加を与えないようにしている。 																																																																																																																																												

3 販売状況	(1) 主な販売地域	関東、中京
	(2) 販売方法	全量全農へ委託販売
	(3) 県認証の活用方法	認証マークを出荷用スチロボックスへ印刷
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	J Aでは、信州の環境にやさしい農産物認証を取得した農産物を区分して取り扱っている

始めた動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A 管内の市独自認証制度と全農系の認証制度が取り組まれてきたが、これを一本化し、県認証に至る。 ・ 安全安心な農産物の生産をモットーに取り組んできた。
農家のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ レギュラーとの別販売で、生産意欲も向上する。 ・ 農産物認証の取組みが、仲間意識づくりの要素にもなっている。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理																																							
病害虫防除													⑧	⑦																									
除草																																							
土づくり施肥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月上旬に土づくりのためサンライム等各種資材を投入する。 ・ 元肥は、6月上旬に 22なべくらアスパラ専用 等の施用を行う。 ・ 追肥は、7月上旬に 22なべくらアスパラ専用 等の施用を行う。 																																						

凡例 ○：播種 ◎：定植 □：収穫 ×：収穫終了

ここがポイント！

- ・ 大面積をこなすため、盛り土を実施し、立茎時期の倒伏防止対策としている。
- ・ 農産物認証の取組みが仲間意識づくりの要素にもなっている。
- ・ 農薬散布回数減も含めた省力化栽培での収益向上も図っている。

<栽培状況等の写真>



<9月上旬の立茎状況>



<ブームスプレーヤーによる防除状況>